2026 年 11 月 4 日

尿中ホルモンと健康に関する研究

研究の目的

生活習慣が生活習慣病発症や健康状態に関わるとされていますが、いまだ、明確にされていません。本調査で尿中のメラトニン、女性ホルモン、抗酸化マーカー等に係る生体指標を測定し、これらが媒介の役目を持つと考えることで、生活習慣と健康・疾患の関連を把握することを目的としました。

研究の方法

2000-2002 年に岐北厚生病院の協力もと乳がん検診に際し行った「乳房レントゲン写真像と生活習慣に関する研究」に参加された 1,053 名の方々に、2008 年、本調査の「健康と生活習慣についてのアンケート」への回答、早朝尿採取をお願いしました。617 名の方の参加を得て、アンケート調査、早朝尿の採取を行いました。

１.アンケート調査

年齢、婚姻状態、職業、身長・体重、生活リズム（食事時刻、起床･就寝時刻、日光浴）、喫煙、運動習慣、既往歴、服薬状況、健康状態、胃腸症状（胃食道逆流症、過敏性腸症候群）、花粉症、うつ状態、更年期症状、不眠について回答いただきました。

２．早朝尿採取

生活リズムに関わるメラトニン、女性ホルモン、抗酸化などを反映する生体指標の測定に用いるため、起床後初めての尿を自宅で採取してもらい、こちらに郵送してもらいました。

今回、大塚製薬株式会社栄養科学研究所に凍結保存された尿サンプルは個人が特定できない ID を付し、宅急便で送付し、反女性ホルモン作用や抗酸化作用を有すると考えられている尿中のエクオール及びイソフラボン代謝物の測定を実施します。この測定結果と胃腸疾患やアレルギー等の生活習慣病との関連性を検討します。

研究期間

許可日～2032 年 12 月 31 日まで

研究に用いる試料・情報の提供を開始する予定日

2026 年 11 月 6 日

研究から生じる知的財産権の帰属と利益相反

研究者及び岐阜大学に帰属し、研究対象者には生じません。研究の結果の解釈および結果の解釈に影響を及ぼすような「起こりえる利益相反」は存在しません。

　なお、大塚製薬株式会社栄養科学研究所は、測定以外、研究の計画、実施、解析に関与しません。

情報の取り扱いおよび倫理について

この研究は 2008 年に岐阜大学大学院医学系研究科倫理審査委員会からの承認を得て開始されました。既に調査は終了しておりますが、測定、解析を続けますので再度、本倫理審査委員会の承認を得ております。全ての情報は、岐阜大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野が管理をしておりますが、解析時は、個人識別情報を外した形で行い、個人情報の保護に努めております。研究結果も全体として集計、発表されるので、個人は特定することはできません。

この調査に参加された方は、今後も解析、尿中生体指標の測定は行なわれますが、尿やアンケートで得られた情報が当該研究に用いられることについて、いつでも中途で研究への利用を取りやめることは出来ます。その場合は研究対象としませんので、以下の事務局までご連絡下さい。

研究責任者　山川　路代　公衆衛生学分野・准教授

相談窓口

〒501-1194 岐阜市柳戸１－１

岐阜大学大学院医学系研究科　公衆衛生学分野

TEL 058-230-6412

FAX 058-230-6413　　担当　山川　路代

苦情窓口

〒501-1194

岐阜県岐阜市柳戸１番１岐阜大学医学系研究科・医学部　研究支援係
TEL：058-230-6059
E-mail：rinri@t.gifu-u.ac.jp

業績

１．Sleep duration, nightshift work, and the timing of meals and urinary levels of 8-isoprostane and 6-sulfatoxymelatonin in Japanese women. Chronobiol Int. 2017;34(9):1187-1196.

日本女性における睡眠時間、深夜勤、食事時刻と尿中 8-イソプロスタン、メラトニンとの関連

＜要約＞睡眠時間が少ない、夜勤に従事する、朝食の時刻が不規則である女性では、酸化ストレスを表す尿中 8-イソプロスタンが高いことが認められた。尿中メラトニンとは関連が認められなかった。

２．Associations of the timing of sleep and meals with the presence of gastroesophageal reflux disease in community-dwelling women in Japan. J Hum Nutr Diet. 2023 Oct;36(5):2026-2035.

女性住民における睡眠や食事の時刻と胃食道逆流症との関連

＜要約＞胃食道逆流症の症状を示す女性では、平日週末とも就寝時刻が遅い、昼食の摂取時刻が不規則、夕食またはその後のスナック等、最終の摂取時刻から朝食摂取までの時間が短いといった傾向が認められた。